地域福祉とアートの連携から「参加支援」を問い直す

福祉とアートとの連携は、これまで趣味やレクリエーション、アートセラピーなど、さまざまな実践が行われてきました。近年は、社会参加やソーシャル・インクルージョンの観点からも注目されています。

社会的孤立が多世代に広がるなか、分野別の支援では対応が難しい複合的課題を抱える人々に対して、地域における関係性や社会参加の機会を回復する「参加支援」の重要性が高まっています。

本シンポジウムでは、地域福祉とアートの連携に関する現場からの実践報告を中心に、支援する/されるという関係を越えた「参加支援」の可能性を問い直します。誰もが地域社会の一員として、自分らしく「参加」できる仕組みづくりについて、具体的な事例をもとに分野横断的に議論し、そのヒントを探ります。

2026年 2月22日(日) 13:00〜17:00（12:30〜受付）

立教大学 池袋キャンパス 5号館 5124教室（東京都豊島区西池袋3–34–1）

参加無料
事前申込制

プログラム

13:00〜	開会挨拶　川村 岳人（立教大学 コミュニティ福祉学部 准教授）
13:05〜	基調講演『地域福祉における社会的包摂と「参加支援」を問う 〜重層的支援体制整備事業の先進的取り組みを通して〜』 宮城 孝（法政大学 現代福祉学部 教授）
14:00〜	シンポジウム 報告①『Arts and Well-being Council Adachi』 堀 崇樹（足立区社会福祉協議会） 報告②『参加支援が生まれる地域への参加支援を考える』 松崎 亮（三股町社会福祉協議会） 報告③『アートプロジェクトの「参加」について 〜「音まち千住の縁」を事例に〜』 吉田 武司（東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 特任講師） 報告④『文化権の保障から「参加」支援の新たな可能性を探る』 小野田 由実子（立教大学 コミュニティ福祉学部 助教）
15:45〜	ディスカッション『地域福祉とアートの連携から「参加支援」を問い直す』 コメンテーター：宮城 孝（法政大学現代福祉学部教授） コーディネーター：小野田 由実子（立教大学 コミュニティ福祉学部 助教） シンポジスト　：吉田 武司（東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 特任講師） 堀 崇樹（足立区社会福祉協議会）／松崎 亮（三股町社会福祉協議会）

主催：日本地域福祉学会関東甲信越静部会
後援：特定非営利活動法人日本地域福祉研究所
お問い合わせ：立教大学コミュニティ福祉学部　川村 岳人　e-mail：g-kawamura@rikkyo.ac.jp

登壇者の紹介

基調講演『 地域福祉における社会的包摂と「参加支援」を問う
～重層的支援体制整備事業の先進的取り組みを通して～』

宮城　孝（法政大学 現代福祉学部 教授）

博士（社会福祉学）。日本地域福祉研究所理事長。研究領域は、コミュニティソーシャルワーク、地方自治体の包括的支援システムなど。「日本地域福祉学会 地域福祉と全世代型包括的支援システム研究プロジェクト」研究代表。地方自治体や社会福祉協議会の地域福祉関連の委員会委員長、住民組織のアドバイザー等多数。コミュニティソーシャルワーカーの養成に長年携わる。単著『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』明石書店、2022年 等多数。

報告①『Arts and Well-being Council Adachi 』

堀　崇樹（足立区社会福祉協議会）

介護職、福祉分野の社会調査・行政計画コンサルタントを経て足立区社会福祉協議会入職。地域包括支援センター、生活支援体制整備事業、重層的支援体制整備事業などに従事。日本介護福祉学会評議員。日本大学文理学部兼任講師。2022～2024年度、東京藝術大学「すみだ川アートラウンド」の高齢化社会をテーマとしたアートプロジェクトにパートナーとして参画した。現在は「芸福連携の実践基盤構築に向けたアートプロジェクト」に取り組んでいる。

報告②『参加支援が生まれる地域への参加支援を考える』

松崎　亮（三股町社会福祉協議会）

大学卒業後、社会福祉協議会に入職し地域福祉業務を担当。平成30年４月、商業デザイナー等とチームを組み、こども宅食をローカライズした「みまたん宅食どうぞ便」を立ち上げ、コミュニティデザインによるアウトリーチの可能性を感じる。平成31年4月より、「自分たちのまちを、自分たちで楽しく」をコンセプトに、社協内に「COMMUNITY DESIGN　LAB.（コミュニティデザインラボ）」を立ち上げ、2025年までに200の活動、2025人の地域活動者を生み出し、地域住民の活動で、地域課題の解決を目指すミッションを掲げ、2025年に達成。令和５年から、地域の居場所トータルコーディネート「夜立よる学校プロジェクト」も進行中。厚生労働省「重層的支援体制整備事業国研修」ワーキンググループ委員（令和４～６年）。厚生労働省「自治体におけるひきこもり相談支援の実施状況に関する実態把握及び効果的な実施方法に関する調査研究事業」検討委員（令和6年）。厚生労働省「地域共生社会の実現に向けた分野横断的な地域づくりの手法に関する調査研究」検討委員（令和6年）。こども家庭庁「こどもの居場所づくりの促進のための、他領域との連携を踏まえた人材配置に関する調査研究」検討委員。（令和7年）コミュニティデザインラボ Webページ：https://commulab.jp/

報告③『アートプロジェクトの「参加」について ～「音まち千住の縁」を事例に～』

吉田　武司（東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 特任講師）

これまで埼玉県北本市で実施された〈北本ビタミン〉（2010年～2012年）や東京都三宅島の〈三宅島大学〉（2013年）、東京アートポイント計画のプログラムオフィサー（2014年）など、行政・NPO・中間支援組織とさまざまな立場からアートプロジェクトの事務局として企画運営に携わってきた。現在、足立区千住を中心に「音」をテーマにまちなかで展開しているアートプロジェクト「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」のディレクターを務める。近年、アートプロジェクトと地域福祉における「参加」に関心を持っている。

報告④『文化権の保障から「参加」支援の新たな可能性を探る』

小野田　由実子（立教大学 コミュニティ福祉学部 助教）

博士（人間福祉）。社会福祉士。学芸員。日本評価学会認定評価士。社会福祉学を基盤としながら、文化政策学や評価学など、学際的な視点から研究に取り組んでいる。近年は、障害のある人の文化権の保障を出発点として、社会福祉学における表現活動（美術・音楽・演劇・ダンスなど）のさまざまな可能性を探求している。また、社会福祉実践における文化権の保障について関心があるため、社会福祉学においても分野横断的な研究を行いたいと考えている。

【会場までのアクセス】
JR各線・東武東上線・西武池袋線
東京メトロ丸ノ内線／有楽町線／副都心線
「池袋駅」下車。西口より徒歩約7分。

お申し込みはこちら➡
本シンポジウムは事前申込制です。
2026年2月15日(日) 締切